

人間の尊厳をそこに聴く。

モルゴーア クアルテット

第53回定期演奏会

2022.6.24 〔金曜日〕

19:00開演 浜離宮朝日ホール
(18:15開場)

指定席 (限定34席) 4,500円 ※指定席はミリオンチケットのみで取り扱い

一般 (自由席) 4,000円 学生 (自由席) 2,000円



J.ゾーン
♩ コル・ニドレ (1996)
J.アクロン
♩ エレジー Op.62 (1927)
E.ブロッホ
♩ 弦楽四重奏曲 第1番 B.40 (1916)

チケット販売

朝日ホールチケットセンター 03-3267-9990
e+イープラス <https://eplus.jp>
ローソンチケット 0570-000-407

「ミリオンチケット」  03-3501-5638

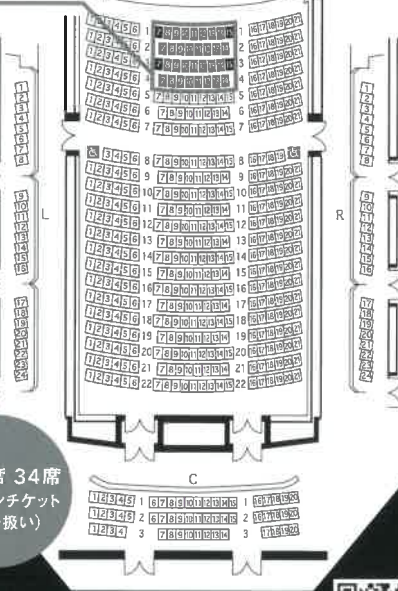
※ウェブサイトからのお申込はセブンイレブンでのお引取り

コンサートマネジメント

ミリオンコンサート協会 03-3501-5638

※裏面の「お客様へのお願い」をご確認の上ご来場ください。





指定席 34席
(ミオンチケットのみの扱い)

上記QRコードでミオンコンサート協会HP
『新型コロナウイルス感染症への対応について』
を必ずご一読の上ご来場ください。



また、20世紀初頭には、ユダヤ人であるハイフェッツ、エルマン、クライスラー、ハジッド、メニューイン、オイストラフ、ミルシテインなどを始めとする多数の偉大なヴァイオリニストを輩出しました。ここで注目すべきは、いま国際的大問題となっているウクライナは伝統として芸術に厚い国として知られています。芸術的な才能がある者は認められれば民族は問わず、ロシアの大都市での教育が受けられました。その結果、親はこぞって我が子にヴァイオリンを持つ

長いその歴史のなかで迫害を受け続けたユダヤ人たちは。彼らは哀しみを湛えた音調を烈しくも美しく歌うことによって生き延びてきたのかもしれない。

19世紀のメンデルスゾーンやマーラーは言うに及ばず、実におびただしい才能は、彼らの心が傷つけられようと、むしろそれをバネに偉大な足跡を刻んできたのは皆さんご承知の通りです。創作というものに魂のルーツを求めらるれば、その旅は彼らの作品に何らかの形で結晶となって表れていることでしょう。

今回のモルゴアはユダヤ人であるジョン・ゾーンとジョゼフ・アクロンの小品にエルネスト・プロッホの大作に挑みます。

ゾーンは「マサダ」などでその過激な演奏で知られているインプロヴァイザー&コンポーザーです。この「コル・ニドレ」では極端にシンプルであるがゆえの訴える力の凄まじさを感じさせます。

もちろん、クレツマーという民衆音楽ではヴァイオリンは欠かせない楽器でした。こうして弦楽器とユダヤ人の強い結びつきは長い歴史があることを思い起こしていただきたいと思います。弦の響きは彼らの魂を揺さぶるものであることを。

たせたのでした。その結果、オデッサを中心とした地域でヴァイオリニストを初めとする音楽家が多数生まれました。

これら3曲に個人を超えた人間の人間であるがゆえの『根源的な祈りと叫び』を全身で受け止めてください。そしてその先にこそ「真の癒し」が待っているのかもしれない。

重いです。特に今回の定期は重いです。では、その日までぐれもお身体を大切になさってください。

荒井英治

この第1番は実に60分を要する長尺ですが、20世紀の弦楽四重奏曲群の中で、正當に評価されているとは言えませんが。その復権のために、今のモルゴアの渾身の力で演奏したいと思っています。お聴きになれば、モルゴアのためにあるような曲だ……と納得されるでしょう。

プロッホはヴァイオリン小品である『ニーグン』という曲名を挙げれば、ピンと来るヴァイオリン・ファンの方もいらっしゃるかもしれませんが、それよりも『シエロモ』というチェロのための名曲でも広く知られているでしょう。彼は番号付の弦楽四重奏曲を5曲書いている他、小品などいくつかも作曲しており、弦への愛着の深さが伺えます。

アクロンはかつて『ヘブライの旋律』が往年の巨匠たちで愛奏されたことのみで名が知られているヴァイオリニスト&作曲家です。シェーンベルクはその作曲の才能を高く評価し、世評の過小評価を嘆きました。自筆譜しか残されていないこの『エレジー』ですが、その激しくも生々しい筆致に魅了され、今回の演奏を決意しました！



©Norikatsu Aida

第1ヴァイオリン
荒井英治
(あらい えいじ)

元東京フィルハーモニー交響楽団
ソロコンサートマスター

第2ヴァイオリン
戸澤哲夫
(とざわ てつお)

東京シティ・フィルハーモニック
管弦楽団コンサートマスター

ヴィオラ
小野富士
(おの ふじ)

元NHK交響楽団
次席ヴィオラ奏者

チェロ
藤森亮一
(ふじもり りょういち)

NHK交響楽団
首席チェロ奏者

MORGAUA QUARTET (モルゴア・カルテット)はショスタコーヴィチの残した15曲の弦楽四重奏曲を演奏するため1992年秋に結成された弦楽四重奏団。翌'93年6月に第1回定期演奏会を開始。2001年1月の第14回定期演奏会でショスタコーヴィチの残した弦楽四重奏曲全15曲を完奏。同年4月、第2ヴァイオリンを青木高志から戸澤哲夫に交代。'01年11月からは「トリトン・アーツ・ネットワーク」との共催公演で『モルゴア・カルテット ショスタコーヴィチ・シリーズ』を5回に亘って行ない、'03年12月に2度目の完奏。ショスタコーヴィチ没後40年(2015)から生誕110年(2016)をつなぐ「ショスタコーヴィチ弦楽四重奏曲全15曲演奏会」を'15年大晦日から'16年元旦にかけて「横浜みなとみらい小ホール」で開催。一晩で全曲演奏するという眩目のプログラム

で多くの聴衆を集め、4度目の完奏。'12年6月と'14年5月、そして'17年3月に日本コロムビアからリリースした、荒井英治編曲のプログレッシブ・ロック・アルバム『21世紀の精神正常者たち』《原子心母の危機》《トリビュートロジー》により、ボーダーレスな弦楽四重奏団としても高い評価を受ける。1998年1月第10回「村松賞」、2011年5月「2010年度アリオン賞」、2016年9月「第14回佐川吉男音楽賞 奨励賞」、2017年9月「第47回JXTG音楽賞 洋楽部門本賞」、2018年6月「第28回みんゆう県民大賞 芸術文化賞」を受賞。モルゴア・カルテットの斬新なプログラムと曲の核心に迫る演奏は、常に話題と熱狂を呼んでいる。「モルゴア」はスペイン語(morgaūa=明日の)に原意を持つ。